

PROGRAM NOTE

2013

近藤 譲：女声合唱のための歌二篇

Two Songs

for Female Chorus

蒲原有明(1875-1952)の『有明集』(1908年初版)に収められている2つの詩を歌詞とする無伴奏女声合唱のための作品。私は最近、高度に対位法的な書法で、12人の声のための《薔薇の下でのモテット》(2011)や、バリトンとチューバのための《花橘》(2013)といった声楽作品を書いたが、この《女声合唱のための歌二篇》にも、(特に第2曲で)同様の書法への関心が強く反映している。こうした関心は、私が若いころから長年好んで聴き続けてきたヨハネス・オケヘムの音楽からの、遅まきながらの影響なのかもしれない。

この作品は、「暁」の委嘱により、2013年の5月に作曲された。歌詞は、下記の通りである。

近藤 譲

初演：2013年12月23日 女声合唱団「暁」第6回演奏会（東京 JTアートホール）

初演者：西川竜太(指揮) 女声合唱団「暁」

委嘱：女声合唱団「暁」

出版：University of York Music Press (UK)

録音：ALCD-115

演奏時間：7分30秒

PROGRAM NOTE

歌詞

近藤譲 作曲《女声合唱のための歌二篇》

蒲原有明(1875-1952)『有明集』より

1. 偶感

寄せては返す浪もなく、ただ平らかに
和みたる海にも潮の満干あり、
げにその如く騒だたぬ常の心を
朝夕に思は溢れ、また沈む

2. 朱のまだら

日射しの
縁ぞこちよき、
あやしや
並みたち樹蔭路。

よろこび
あふるる、それか、君、
彼方を、
虚空を夏の雲。

あかしや
枝さすひまびまを
まろがり
耀く雲の色。

君、われ、
二人が樹蔭路、
縁の
匂ひこちよき。

軟風
あふぎて、あかしやの
葉は皆
たゆげに翻り、
さゆらぐ
日影の朱の斑、
ふとこそ
みだるれわが思。

君はも
白帆の滲入りや、
わが身に
あだなる戀の杖。

軟風
あふぎて滲逸れぬ、
いづくへ
君ゆく、あな、うたて。

思ひに
みだるる時の間を
夏雲
重げに崩れぬる

縁か、
朱か、君、あかしやの
樹かげに
あやしき胸の汚染。